

解析学はどのようにして生まれたか？

(多項式補間とTaylor級数をめぐって)



- 内容
- (1) 多項式補間の考え方
 - (2) Taylor型補間からベキ級数へ
 - (3) 解析学の基礎付け



ごあいさつ

補間法とは、与えられたデータから現象をよく近似する関数を決定する最も基本的なアイデアです。数学によって自然を探求するために微積分の発見以前に発生しNewtonによって基礎が確立されました。

古い数学と思われるかもしれませんがそんなことはありません。

現代でも、実際の応用の世界ではコンピュータの発達により、この方法は一層改良され重要さを増しています。そして、この考え方の無限小化の中でTaylor公式は発見されたといわれています。

数学工房代表 桑野 耕一

- 講 師：桑野 耕一
- 日 時：2008年4月29日(火・祝) 13:30~16:30
- 場 所：SEA科学教育研究会
- 対 象：数学に真剣に取り組みたいと思っている高校生以上のすべての方
- 参加費：4,000円
- テキスト：テキストを配布します
- 定 員：50名(先着順)
- 申込方法：
 - ・申込用紙に必要事項を記入の上、SEAまでお送り下さい。
 - 先着順で受け付け、定員に達し次第締め切ります。
 - ・参加費は当日お支払いください。
 - ・同時に数学工房に入会できます。入会希望の方は「同時入会」に○をつけて下さい。(年会費3,000円・学生1,500円)

◆連絡先：SEA科学教育研究会

〒466-0027 名古屋市昭和区阿由知通5-5
TEL 052(852)5578 FAX 052(852)6045

[交通：地下鉄「御器所駅」3番出口から南へ徒歩3分]

キリトリ線

公開講座(名古屋)参加申込書

【会員・学生会員・非会員・同時入会】(該当に○印)

2008年 月 日

氏名： _____ 勤務先： _____

住所(自宅・勤務先)：〒 _____

TEL： () _____ FAX： () _____

e-mail： _____